

新規選定① 戦国期城下町に起源を持つ筑波山北麓に栄えた在郷町ざいごうまち

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区
さくらがわしまかべ

所在地 茨城県桜川市真壁町真壁字下宿町、字高上町、字大和町の全域並びに
まかべちょう しもじゅくちょう たかじょうまち やまとちょう
かみじゅくちょう なかまち
字上宿町及び字仲町の各一部

面積 約17.6ヘクタール

桜川市は茨城県中部、筑波山の北側に位置し、市域南部の真壁町は、東から南に連なる筑波山系を背に、西側へ緩やかに下る傾斜地に広がる。

真壁町は、真壁城（国指定史跡）に付属した集落に起源を持ち、町割もその頃のものを継承しつつ、遅くとも慶長20年（1615）までには成立していたと考えられる。笠間藩の支配となった後は、城に代わって陣屋が置かれ、周辺地域の物産が集散する在郷町として発展し、北関東及び東北地方への木綿販売の拠点としても繁栄した。

江戸時代は、陣屋を中心とし、東西に延びる4本の主要な通りに沿って5町が形成され、周囲を藪や柵によって画されていた。町並みは茅葺家屋が主体であったとみられるが、天保8年（1837）の大火後は、蔵造の町家が次第に普及していった。近代には陣屋が廃され、跡地西半が改変を受けたが、近世初頭以来の町割は現在も良く残されている。

保存地区は、江戸時代の真壁町の中心部分を占める約17.6ヘクタールの範囲である。
なかまち しもじゅくちょう ごじんやまえどお くらづくり なかまち かみじゅくちょう
仲町と下宿町を南北に結ぶ「御陣屋前通り」に蔵造の町家が集中し、仲町や上宿町には、真壁造の町家や平屋建の住宅などが残り、敷地の奥には煉瓦造や石造の蔵も残る。
しんかべづくり
間口の広い敷地では主屋脇に薬医門やくいもんや袖蔵そでくらを建てて塀を巡らすなど、多様性のある町並み景観がみられる。

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区は、戦国期を起源としつつ、近世初頭に成立した町割を良く残す。町並みには、近世後期から近代にかけての多様な伝統的建造物が残り、筑波山北麓に栄えた在郷町の歴史的風致を今日に良く伝え、我が国にとって価値が高い。



ごしんやまえどお
御陣屋前通りの町並み



しもじゅくちょう
下宿町の町並み

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区の範囲

